

令和元年12月

各 位

公益財団法人ひょうご震災記念21世紀研究機構
(アジア太平洋フォーラム・淡路会議事務局)

時下 ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

アジア太平洋地域の多様な文化が共生する“新たなアジア太平洋のビジョン”の構築と発信をめざす「アジア太平洋フォーラム・淡路会議」(代表理事：井植 敏)は、「アジア太平洋研究賞」(井植記念賞)を設け、アジア太平洋地域に関する優れた人文・社会科学領域の博士論文を顕彰しています。

この度、第19回受賞候補論文を募集しますので、ぜひご推薦を賜りますようお願ひいたします。
なお、今回募集要項の一部見直しを行っていますので、ご留意ください。

記

● 対象

日本の大学院で学んだ日本人および留学生で、平成27年3月以降に当該大学院博士課程を修了し応募時点において学位取得済（平成27年3月以降に単位取得退学し、その後博士の学位を取得している場合も可）、かつ大学院の指導教員から推薦を受けた者

● 論文

1. アジア太平洋地域における「多文化共生社会」の実現に資する人文・社会科学領域の研究をテーマとする論文であること。
2. 当賞に初めて応募する論文であること。

● 提出期限

令和2年4月17日（金）【必着】

● 受賞者及び賞の内容

受賞者数 2名程度

賞の内容 本賞：表彰状及び副賞（100万円）

● その他

応募・ご推薦に際しては募集要領をご覧ください。

〔アジア太平洋フォーラム・淡路会議ホームページにも募集要項を掲載しております。〕

〔また過去の受賞者については、同ホームページの「顕彰事業」をクリックすればご覧いただけます。〕

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2

人と防災未来センター東館6F

公益財団法人 ひょうご震災記念21世紀研究機構

(アジア太平洋フォーラム・淡路会議事務局)

TEL: 078-262-5713 FAX: 078-262-5122

E-mail: gakujutsu@dri.ne.jp

HP: <http://www.hemri21.jp/awaji-conf/>

第19回「アジア太平洋研究賞」（井植記念賞） — 募集要項 —

アジア太平洋地域の多様な文化が共生する“新たなアジア太平洋のビジョン”の構築と発信をめざす「アジア太平洋フォーラム・淡路会議」（代表理事：井植 敏）は、「アジア太平洋研究賞」（井植記念賞）を設け、アジア太平洋地域に関する優れた人文・社会科学領域の博士論文を顕彰しています。

第19回受賞候補論文を次のとおり募集しますので、奮ってご応募ください。

■ 主 催

アジア太平洋フォーラム・淡路会議

■ 後 援

朝日新聞社大阪本社（予定）

■ 対 象

日本の大学院で学んだ日本人および留学生で、平成27年3月以降に当該大学院博士課程を修了し応募時点において学位取得済（平成27年3月以降に単位取得退学し、その後博士の学位を取得している場合も可）、かつ大学院の指導教員から推薦を受けた者。

■ 論 文

1. アジア太平洋地域における「多文化共生社会」の実現に資する人文・社会科学領域の研究をテーマとする論文であること。
2. 当賞に初めて応募する論文であること。

■ 応募期間

令和元年12月10日（火）～令和2年4月17日（金）必着

■ 応募書類

1および2の①～④のすべてを応募期間内必着で送付のこと。【持参不可】

1. 所定の推薦書（ホームページからダウンロード可）

2. 添付書類（日本語または英語表記に限る）

①～③はA4判紙媒体、④は電子媒体にて提出のこと

①博士論文 1部（製本・未製本いずれも可）

②論文要旨 1部（片面1枚）

③②の要約文 1部（300字以内）

④上記①～③のPDFデータを保存したCD-ROM又はUSBメモリ

上記①～③それぞれを独立した3つのPDFファイルとし、ファイル名には執筆者名を入れて日本語または英語で保存のこと。

（例：①博士論文のPDFファイル「淡路太郎 博士論文.pdf」）

*博士論文が書籍化されている場合は、書籍1部を合わせて提出すること。なお、提出された書籍は、審査終了後に返却します。

応募書類に不足・不備がある場合は、応募を受け付けないこともあります。
書籍以外の応募書類は返却しません。

- 論文の選考
研究賞選考委員会において審査・選考を行います。
- 受賞者数および賞の内容
 - (1) 受賞者数 2名程度
 - (2) 賞の内容 本賞：賞状および副賞 100万円
- 審査・選考結果の発表
 - (1) 受賞者の発表は、令和2年7月頃の予定です。
 - (2) 選考結果については文書で通知します。
 - (3) 受賞論文の要旨を淡路会議年次報告書に掲載します。
- 授賞式
令和2年7月31日（金）（淡路夢舞台国際会議場で開催予定）
- 提出先（お問い合わせ先）
〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2 人と防災未来センター東館6F
公益財団法人 ひょうご震災記念21世紀研究機構内
「アジア太平洋フォーラム・淡路会議」事務局

TEL : 078-262-5713
FAX : 078-262-5122
E-mail : gakujutsu@dri.ne.jp
ホームページ : <http://www.henri21.jp/awaji-conf/>

The 19th Asia Pacific Research Prize (Iue Prize)

—Application Outline—

The Asia Pacific Forum, Awaji Conference Japan, which aims to create and spread a “new Asia Pacific vision” of symbiosis among the diverse cultures of the Asia Pacific region, established the Asia Pacific Research Prize (Iue Prize) to reward outstanding dissertations in the field of humanities or social sciences relating to the Asia Pacific region. Applications for the 19th Asia Pacific Research Prize (Iue Prize) are invited under the following conditions:

- Organizer
Asia Pacific Forum, Awaji Conference Japan
- Support
The Asahi Shimbun Osaka Head Office (tentative)
- Eligibility
Japanese or international students who have officially enrolled in a post-graduate course at a Japanese graduate school and have been conferred a doctorate from such institution after March 2015. A letter of recommendation is required from the advisor of the graduate school.
- Dissertation
 1. The dissertation should detail research in the humanities or social sciences that contributes to the realization of a “multicultural symbiotic society” in the Asia Pacific region.
 2. Dissertations submitted in previous years are not acceptable.
- Application Deadline
April 17, 2020
- Application Documents (non-returnable)
All documents 1. and 2.1. to 2.4. listed below must arrive by Friday April 17, 2020: Submitting in person is not acceptable.
 1. Prescribed Letter of Recommendation (downloadable from the website shown below)
 2. Supplementary documents (either in Japanese or English)
Documents 2.1. to 2.3. must be submitted as A4 sized-paper copies and 2.4. in an electronic medium:
 - 2.1. Copy of the dissertation (either in sheets or bound)
 - 2.2. Outline of the dissertation (one page; single-sided printing)
 - 2.3. Summary of the outline (120-word summary of the outline of the dissertation mentioned above)
 - 2.4. Recording medium such as a CD-ROM or USB flash drive containing PDF data of 2.1. to 2.3. shown above. Each document must be saved as an individual PDF file under the applicant’s surname, e.g. “SMITH dissertation.pdf”.

*If your dissertation has been published, submit a copy of the book. It will be returned afterwards.

Note that the application may not be accepted if any of the application documents are missing or incomplete.

- Selection of Prizewinners

The selection committee of the Asia Pacific Research Prize will review the dissertations to select prizewinners.

- Number of Prizewinners and Prize Details

1. Number of prizewinners: Approximately two
2. Details of prize

Main prize: Prize certificate and a prize of 1,000,000 yen

- Announcement and Notification of the Results

1. The name of the prizewinners will be announced in July 2020 (tentative).
2. The result of the selection will be notified in writing.
3. The outline of the prizewinning dissertations will be published in our annual report of the Awaji Conference.

- Awards Ceremony

To be held on Friday July 31, 2020 at the Awaji Yumebutai International Conference Center.

<Address for Submission of Applications and Contact Details>

Secretariat of the Asia Pacific Forum, Awaji Conference Japan

Address: East Bldg. 6F, 1-5-2, Wakinohamakaigan-dori, Chuo-ku, Kobe, Hyogo, Japan 651-0073

TEL: +81-(0)78-262-5713

FAX: +81-(0)78-262-5122

Website: <http://www.hemri21.jp/awaji-conf/english/index.html>

E-mail: gakujutsu@dri.ne.jp

未来へ共生探るう

アジア太平洋地域の将来について議論する「第20回アジア太平洋フォーラム・淡路会議」（井植誠・代表理事）が8日、兵庫県淡路市であった。第18回アジア太平洋研究賞（井植記念賞、朝日新聞社後援）の佳作に選ばれた京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科在籍員の黄潔さん（33）、韓国・国民大学グローバル人文・地域学部日本学科非常勤講師の朴敬珉さん（37）、大阪大学大学院人間科学研究科特任助教のアレキサンドリ・バーボン・イッチャム（35）の3人の授賞式も行われた。

中国出身の黄さんは、中国南部の少数民族トング族の社会について、「河川流域を単位とする地域システムに着目した新しい視点で詳細に考察した」と評価された。授賞式のあいさつで「トング族が漢民族の文化の影響を受けつつ、タイ北部の民族と似た独自の社会を持つ結果となりました。中国少数民族と東南アジアの研究を継続する成果を世に出したい」と語った。

中国出身の朴さんは、植民地時代の朝鮮で生活していた日本人が、戦後の日韓国交正常化交渉で果たした役割や影響を実証的に明らかにした。「朝鮮から引き揚げた日本人が植民地時代に所有していた財産を、日本政府は國交正常化交渉で問題にした。歴史認識の相違など現在の日韓関係悪化となるが問題だが、多文化共生に向かって貢献したこと」を述べた。

セルビア出身のバーボン・イッチャムは、第二次大戦後の極東問題

と述べた。

記念講演では、建築家の安藤忠雄さんが「21世紀のアジア太平洋社会の展望」をテーマに講演。

安藤さんは「活動を拡げ、「多くの人が募金を寄せ、共に生きよう」としてくださった。資源に限りがあり、世界人口も増えつつある今、希望と好奇心を持つ、自然と共生する世界をつくるねがなんない。個人の企業や、利益ばかりを追うのではなく、社会に便ができるのかを考えるべきだ」と訴えた。

文化人類学者の青木保さんは

「21世紀に入り、東アジア各国で消費生活が向上し、文化施設や大学も充実。映画や「ファシション」などのソフト面も大きく発展し、文化的な文化力の強化と対外的発信が重要。神戸にアートやショッピングなどの機能を備えた巨大なアジア・太平洋国際文化芸術生活センターの設立を」と提唱した。



ボウイッチ
パーさん

朴敬珉さん

黄潔さん

タインの元商務相のナロンチャイ・アクラサニーさんは「ホンダル化でのコマース（ネット上の電子商取引）など新たなテクノロジーが急速に成長し、アジア・太平洋地域の経済に大きな影響を与えていく。省エネに役立つプロジェクトを推進し、土の堅密な協力関係を築けば、アジア・太平洋地域の重要性は世界で一層増すだらう」と述べた。

（起田洋一郎）